

NO 5
S62、10月31日
—発行—
〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
TEL096
293-8100

お母さんの電話話

理事長・田中稔

あるお母さんから次の様なお電話をいただきました。

「同じ親同志としてお分かりいただけると思い電話しました。子供の受け持ちの指導員の方から、帰宅訓練日をもう一日増やしてもらえないかというお話しがありました。現在月2回行っておりますが車の無い私としてはこれが一杯なんです。先月も帰る途中で車の往來の激しい57号線を突然走って横切ってまた戻って来るという様なことがあります。途中のバス、汽車、人込みの中でいろんな思いをして連れて帰っております。帰ってからの様子は以前に較べて落ち着いている様に思います」と言った内容でした。

いくつか大切な事が含まれております。子供の置かれていた状況を分かってもらえるのは親同志だからと言っておられます。一人一人のお子さんの事は良しにつけ、悪しきにつけ生まれられた時から現在まで見、思い、考え、経験してこられた一人一人のお母さんが総合的な意味において、分かっておられると思えます、分かるという事を例えて言いますとグラウンドで野球をやっている者と解説している者とは場が違います。親同志の方が分かり合える事が多いかもしれませんがお預かりして半年しかありません、若い指導員にも思っておられる事をどうか話していただきたいと思えます。

私達は子供達が生き生きと生きていってくださる為には家庭や家族の方とのふれあいや協力は大切なものと考えております。施設、家庭、社会という輪の中で子供達の生活を位置づけたいと考えております。一方、施設という場で言われる「できる様になった」「変わった」「伸びた」という事と、家庭、社会、或はその途中で「何ら変わっていない」「大変さは変わらない」と言われている事との実感の相違についても私達は十分に考えなくてはなりません、施設といういろいろな条件が許される場だからこそできてくる事がたくさんあります。又、それだからこそ子供達を中心とした考え、工夫された生活の場としての施設の存在意義があります。

家庭や社会を子供達の生活の場にするためには、たった道路を渡れるというそれだけの事さえ満足に出来ない(障害の根幹とかかわっている為に)子供であるというお母さんの想いを受け止めて、療育を考えなくてはいけないと思っております、そうしなければ「分かっている」といえない」といふ心の中でのつぶ

ぼくの夏休み

有馬明子

英俊が「ぼくの夏休み」と題して書くとしたら、こんなことを書くかもしれません。

『ぼくは、三人兄弟の長男、妹が二人いるんだ。美人かって？ それぼくがハンサムだから、わかるだろう！』

ギヤアギヤア泣いてうるさかったのが、今では「お兄ちゃん良く出来たね、お利口さん」なんちゃて、ぼくの頭をなでってくれるんだ。ぼく、ちょっぴり照れるんだ。

こんなぼくだから、いつも母をひとりじめ、夏休みは尚更さ。夏休みが近づくと母は、一夏の仕事を前もって片付けようと張り切って、休み前にダウン、父は手帳の日程表とにらめっこ、毎年の光景なんだよ。

ぼくとききたら音楽を聞いている。ほかは、家の中でおとなしくしているの苦手ときているだろう、ぼくのスケジュール表をぬりつぶす

のは大変らしいんだ。

ドライブ好きのぼくのおかげで天草の道は覚えてしまったと感謝されているよ。

良く遊び良く遊びのぼくでも、少しは手伝いも頑張っているんだよ。植木の水やり、犬の散歩などなど。それにね、茶碗洗いが上手になったとほめられたよ。三氣の里で洗面器洗いを頑張っているからかなあ！

そうそう、毎年夏の楽しみはなんととっても家族旅行なんだ。ぼくも自動車に乗って本の配達につきあつたり、シイタケを入れるカゴを持って山に行ったりして資金づくりのため活躍してるんだ。

旅先では家と違って、面くらう事が多くてね。こんな事もあつたよ。宿の洋式トイレに乗かって、なかなかうまくいかないんだ。結局一晩中、親子ともトイレに出たり、入ったり！でもね、くさい経験のおかげで、歯科に入院のとき洋式トイレだったけど、ちゃんとできるようになってたよ。

毎年、いろいろハプニングをおこして妹達を赤面させるけど、こりもせず今年も、宮崎に連れていってもらったんだよ。

もう十二年ほど続いているけれど旅先では、普段より父のいいつけを守ることにしてるんだ。おいてけぼりはいやだからな。

妹達は、景色がいいだの、珍しいものがあつたとか、はしゃいでいるけど、ぼくは、ひたすらグルメ志向派なんだ。ちょっぴり疲れるけど、やっぱり旅は、いいものだ。

この頃、いつでも家に帰れるのが嬉しくて、この調子ならもつとお利口になれそうな気がするよ。あわてず、根気よく頑張ろう！もしかしたら、ご褒美に来年も旅に行けるかな。『本人は、どんなに思っているのか判りませんが。』



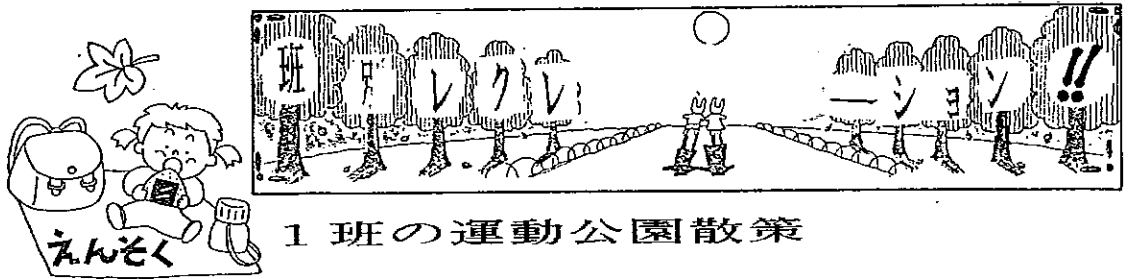
3 班の立田山ハイキング

10月22日、今や紅葉を待たんばかりのよき日に恵まれた3班は、立田山へハイキングに出かけました。まずは、自然公園内散策と、竹林の中をしっとり歩き池辺でおいしいお弁当を食べました。その後、頂上までのんびり歩き、頂上でそれぞれ買って来たおやつを食べたのですが、これがハイキングのクライマックス。クッキーをみんなにせがまれ、一口かじってみんなに配るのりちゃん、寄ってきた犬からポテトチップをかじりながら全速力で逃げたしんちゃん、カラムーチョを大塚さんにせがまれて無言で渡した啓三君、それを横目で見ながら、アッもう食べたの？としたたかに食べ終わっていたのはけいちゃんです。そうじのがんばりが足りず、おやつはなしよと言われていたようじ君だけど、セシルチョコレートとポッキーを手にした時の白い歯の輝き、皆が食べ終わり立ち上がった時、一人優雅にえびせんをつまんでいたけんちゃん、そして今や、三気の里のプリンセス“赤ずきんタタ”のあっこちゃん（3班のニューフェイスレディー）、とても静かにつぶれてしまったポテトチップスをつかみ、まんじゅうのようにほおばったのでした。来月のハイキングは、これはハードコースだぞ！
(小道)

4 班俵山ハイキング

日ごろ土運びで体力をつけている4班は、今日は体力のみせどころ、俵山にハイキング行きました。皆んなと一緒に、お日様もにこにこです。車から降りると早々と歩きだす勝己ちゃん。手を結び、ほほ笑み合っている典浩くん、誉征くん。うれしさのあまり、ピョンピョンはねる和久くん。この大自然の中何故か耳ふさぎをして、笑っている方紀くん。皆んなの心配をよそに、はりきっている忠夫くん。何を目指しているのか、らんらんとした目で遠くを見つめている創くん。お出かけ大好きな文彦くんも、「アウッ」と言いながら、跳びはねている。「出発進行！」の声かけで、歩きだす。風が、気持ち良く吹いてくる。どんどん、歩く。景色も変わる。頂上まで、もう少し！やっと到着。俵山からの景色はすばらしく、思わず深呼吸をしてしまう、などと思っているのは私達ばかり。子供たちは、景色よりも何よりもお弁当と言った表情である。さすがに食欲旺盛で、いつのまにかお弁当も空っぽ。横目でねらっていたかと思うとさっと取って一気飲みさされてしまったオレンジジュース。思わず我を忘れて、「このやろーっ」と叫んでしまった楽しいハイキングでした。（坂本）





1 班の運動公園散策

十月十五日晴れ、前日から心配していた台風の影響も、1班のみんな、職員共々日頃の行いが良いという事なのか、ちょっと足踏み状態でまってくれて楽しい一日が過ごせ神様に感謝感謝でした。

新しい水筒、リュック、帽子と決めに決めた希久男君、この時とばかりにおめかしした由美ちゃん、お弁当を大事そうに見守る潔君、運動公園は俺の庭よとばかりに余裕の武ちゃん、三気の里の芝より運動公園の落ち葉がステキと重ちゃん、自転車に乗ってリフレッシュするぞと信ちゃん、散歩が好きなみっちゃん、ブランコ大好き子俊ちゃんと、広い運動公園を力一杯駆けめぐりました。午前中は、散歩が全員参加、その後昼食となり、愛情のこもったお弁当を我先にとほおぼりたいらげてしまいました。

午後からはチャリンコ族と探検隊の二班に別れ行動し、チャリンコ族の方は自転車に乗りサイクリングコースを、探検隊は、あちらの公園こちらの公園ととめどもなく歩き日頃の運動不足解消という感じでした。

君達のおもいうきり楽しんだ顔、熱中した時の汗、それぞれが輝いてくれて嬉しかった。
(田の上)

2 班のみかんがり

秋晴れの空の下、河内のフルーツランドに総勢20名でおしかけました。着いたとたん弁当を食べ、デザートはみかん山に登り、みかんを食べようということになりました。一週間以上も前から楽しみに待っていた富多三さん、出発前に足を負傷しながらも頑張って山を登った修ちゃん、山に入るとすぐ座り込んでひたすら食べていた哲ちゃん、はさみを使わず、手でもいで食べていた英ちゃん、隣の芝生ならぬ隣のみかんを味見してまわっていた民ちゃん、山の頂上近くまで登ったグルメのはじめくん、途中で食べすぎてお昼寝休けいとった浩ちゃん、ボランティアのお姉さん大好き博くん、出されたみかんは全部やっつけた一章くん、みかん狩りにもダンディに決めていく博(ひろ)ぼ一、お金を払った分だけ食べて帰ろうというガメツイ職員、園生に負けじと頑張っけて食べていたボランティアさん、みんな、満足しきって帰って来ました。みかん狩りにはちょっと早過ぎて青いみかんが多かったけれど、自分でとったみかんは最高においしかったね。また、行こうね。

(2ページから)

なるよう願います。

三気の里ではその子がいて三気の里であり、その子の都合が三気の里の都合であるよう努力します。

自分のこのころの表現が驚くほど下手な子供たちが、確かに示す自分の居場所を大切に守りたいと思います。



ただ今

食堂営業中

『食堂での』

お手伝い』

最初の頃は、食べる事だけで精一杯だった園生が、最近では少しずつお手伝いをしてもらえるようになりました。そのお手伝いもさまざまで、時には、お手伝いにならず、後で手のかかる事もよくあります。例えば、先日A君に各テ-

ブルに箸立てを置いてくれるように頼みました。A君は、一度にたくさん持とうとしたため、持ち上げたと同時にたくさんの箸が床に散らばってしまいました。B君は自分が食べたお茶碗は洗ってくれます。しかしその後流しは残飯がつまっています。C君は、掃除が終わった後、テーブルに上げていくイスを頼まなくても降ろしてくれます。しかしそのイスは、食堂いっばいに広がっています。私達がやるのを見て、だんだん色んな事をやってくれます。小々手間どのお手伝いもあります。うれしい事です。

(こおろぎ)

ボランティアに

参加して

県立保育大学校

河津 和恵

陣内のバス停から左へ真っすぐ歩いていくと、緑に囲まれた丘の上三気の里が見えます。実習、

そして、ボランティアにお邪魔する度に、何とはなく懐かしい感じのする所です。

三気の里に来ると、いつでも職員の方々の笑い声が聞こえ、園生の皆とも会うのが楽しみです。今回は、二班・三班のお友達とプールに行ってきたのですが、泳ぎのとても上手なKちゃんについて行くのに必死で足がこわってしまいました。でも、あんなに喜んでくれる園生たちを見て“心から心から良かったね”の一言でした。私も一緒に思いつきりはしゃいでいました。実習の時には、夢中で見えなかったものとか、わからなかったこと、また改めて考えさせられることもいくつかありました。これからも、(お役に立つかどうかは別として)何かあればやってきたいと思います。



実習生の実

懲りない面々

竹原豊美

というわけで、長かった血と汗と涙にじんだ三週間の実習も何とか無事?!に終わり、今まさに、光陰矢の如しという言葉を実感しているわけですが、この三気の里で園生と共に過ごした3週間は、これからの私の人生を大きく変え、そして、私自身を成長させてくれる一つのきっかけとなりました。前置きが長くなりました。すみません。

最初の頃、園生に対して色々な先入観を持っていた私は、園生にとって、ただの傍観者にしかすぎませんでした。そのため、園生の裸を見ては、軽いめまいを覚え、園生のひよんな行動を見ては、何かと理論づけばかりをしていました。それから一週間が過ぎ、自分が興味をもった園生を担当することになり、私はのりちゃんを担当させてもらいました。何故のりちゃん

んを選んだのかは、やはり外見的に私の興味を引くものがあつたからで、動かしにくい、泣き虫とかは、のりちゃんに接してみても分かつたことで、実は、私の好みでなくて、内気な私にはとても言えませんでした。思えば、のりちゃんには本当に大きなお世話をしてしまいました。さぞや迷惑だったろうと思います。洗濯物をたたむ時でも、くしゃくしゃにたたむのが好きなのりちゃんに対し、私は意地できれいにたたもうとし、しばしば対立してしまいました。ハミガキの時でも、すぐ歯磨き粉をすてるのりちゃんに、これでもか、いやがるのを半分強しみながら、ハブラシに粉をなすりつけては、水を引っかけられたものでした。

“もういやだ!”と思ったのは、考えるよりまず行動、と実践してみたのはいいのですが、“のりちゃん、こうやって顔洗おうネ”と自分が先に顔を洗ってみせたのはいいのですが、ふと顔をあげると誰もいなかったってことでしょうね。

のりちゃんの興味をひいていなかったことも失敗の原因ですが、私の指導の未熟さが大きく出たできごとでした。

のりちゃんにとって私は、お母さんの次に甘えさせてくれる人か、もしかしたら口うるさいお姉さんだったかも知れません。でもいい、時折、他の園生と仲良くしている私に、やきもちの態度を示してくれたから。私の水でぬれた手や腕を、たった今ろう下をふいたぞうきんでふいたりしてくれたから。でも、やっぱり、帰宅訓練の時、お母さんがお迎えに来て私の方をちらっと見て手を振ったきり、うれしそうにそれこそ跳びはねて帰るところを見ると、淋しいなあと思ってしまう私です。のりちゃんとの二週間、あんな事、こんな事いろいろあったけど、いくらのりちゃんに、つきはなされようと、又、いつか、会いたいと思う懲りない私なのでした。



完

